

廃棄物処理業界 イメージアップ戦略

～業界の魅力を再認識～

2023年度 経営塾OB会
中部ブロックWS

- ・ テーマ選定理由
- ・ 業界の存在意義
- ・ 実態調査と各社の取組み事例
- ・ 業界の魅力PV
- ・ まとめ

目次

テーマ選定理由

テーマ選定理由

昨年度テーマ・・・アウトターブランディング中心

「産業廃棄物処理業界 イメージアップ戦略」
～モテる業界への道～



今年度テーマ・・・インナーブランディング中心

「産業廃棄物処理業界 イメージアップ戦略」
～業界の魅力を再認識～

昨年度の調査結果より

- ・約7割以上の方が廃棄物処理業界を認知
- ・約9割以上の方が廃棄物処理業界は社会に必要と認識
- ・約7割以上の方が廃棄物処理業界に将来性を感じている
- ・年齢が低い世代ほどイメージ良く、高い世代ほどイメージ悪い
- ・業界に従事している人より従事していない人のほうがイメージが悪い
理由：「汚い、危険、きつい、怖そう」とのイメージ

次世代を担う年代からのイメージは悪くない！



昨年度の調査結果より

- ・約7割以上の方が廃棄物処理業界を認知
- ・約9割以上の方が廃棄物処理業界は社会に必要と認識
- ・約7割以上の方が廃棄物処理業界に将来性を感じている
- ・年齢が低い世代ほどイメージ良く、高い世代ほどイメージ悪い
- ・業界に従事している人より従事していない人のほうがイメージが悪い
理由：「汚い、危険、きつい、怖そう」とのイメージ

業界を知らない人のイメージは・・・



テーマ選定理由



業界に従事していない人からも
良いイメージを持ってもらう
必要があるのでは？！

テーマ選定理由



業界に従事していない人からも
そのまえに・・・
必要があるのでは？！

テーマ選定理由



業界従事者が誇りを持って
いなければ、業界従事者以外
の人を引き込めない！！

テーマ選定理由

産業廃棄物処理業界 イメージアップ戦略

～業界の魅力を再認識～

業界の存在意義

廃棄物処理に対する課題と法律の歴史

年代	主な課題	法律の制定
戦後～1950年代	<ul style="list-style-type: none"> 環境衛生対策としての廃棄物処理 衛生的で、快適な生活環境の保持 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃法 (1954)
1960年代～1970年代	<ul style="list-style-type: none"> 高度成長に伴う産業廃棄物等の増大と「公害」の顕在化 環境保全対策としての廃棄物処理 	<ul style="list-style-type: none"> 生活環境施設整備緊急措置法 (1963) 廃棄物処理法 (1970) 廃棄物処理法改正 (1976)
1980年代	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物処理施設整備の推進 廃棄物処理に伴う環境保全 	<ul style="list-style-type: none"> 広域臨海環境整備センター法 (1981) 浄化槽法 (1983)
1990年代	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の排出抑制、再生利用 各種リサイクル制度の構築 有害物質（ダイオキシン類含む）対策 廃棄物の種類・性状の多様化に応じた適正処理の仕組みの導入 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物処理法改正 (1991) 産業廃棄物処理特定施設整備法 (1992) パーゼル法 (1992) 環境基本法 (1993) 容器包装リサイクル法 (1995) 廃棄物処理法改正 (1997) 家電リサイクル法 (1998) ダイオキシン類対策特別措置法 (1999)
2000年～	<ul style="list-style-type: none"> 循環型社会形成を目指した3Rの推進 産業廃棄物処理対策の強化 不法投棄対策の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 循環型社会形成推進基本法 (2000) 建設リサイクル法 (2000) 食品リサイクル法 (2000) 廃棄物処理法改正 (2000) PCB特別措置法 (2001) 自動車リサイクル法 (2002) 産廃特措法 (2003) 廃棄物処理法改正 (2003～06、10) 小型家電リサイクル法 (2013)

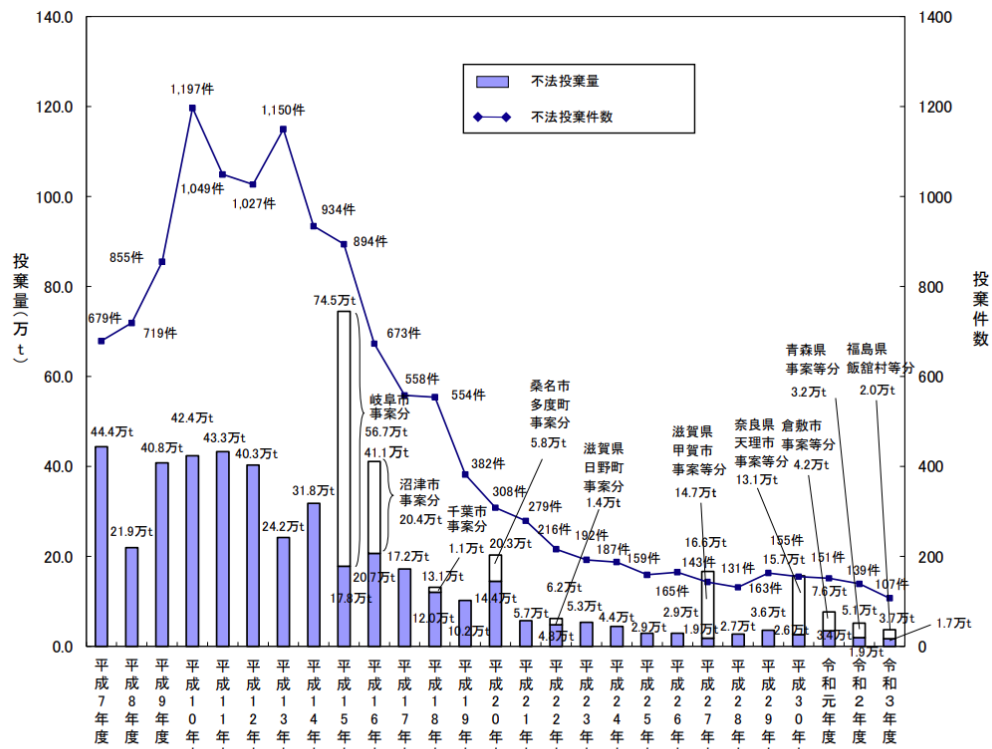
公衆衛生の向上

公害問題と生活環境の保全

循環型社会の構築

出典：環境省

不法投棄件数

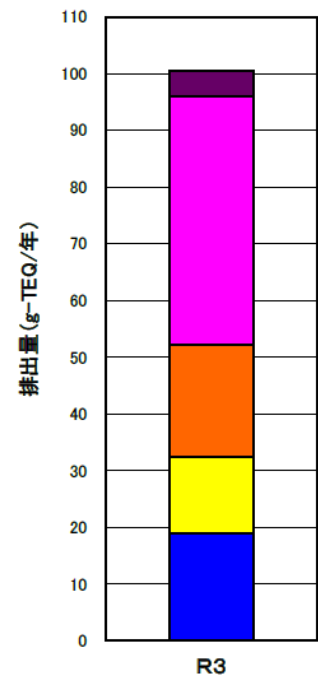
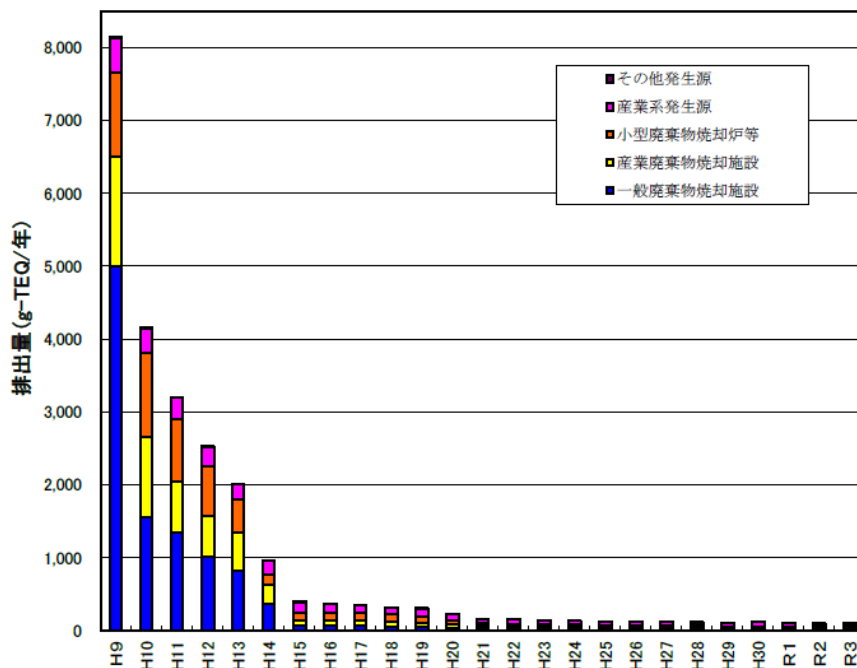


不法投棄件数及び投棄量の推移

出典：環境省

ダイオキシン類の総排出量

別添3 ダイオキシン類の排出総量の推移



出典：環境省

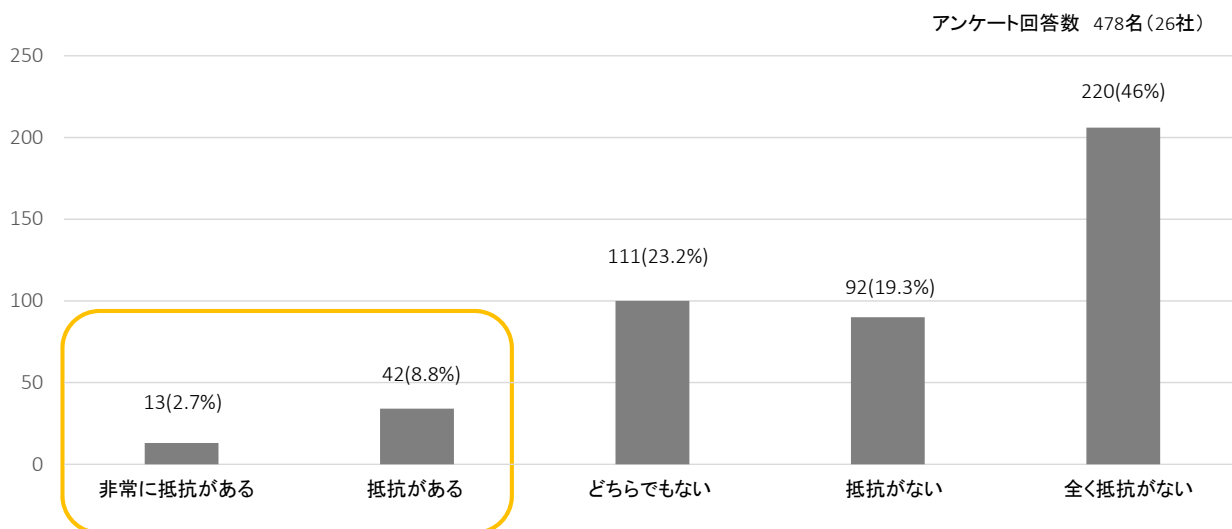
私たち産業廃棄物処理業界の使命

- ・ 地球環境保全のための各種廃棄物の適正処理
- ・ お客様に社会に必要とされる存在になること
- ・ 次世代へ、綺麗な状態で地球を引き継ぐこと



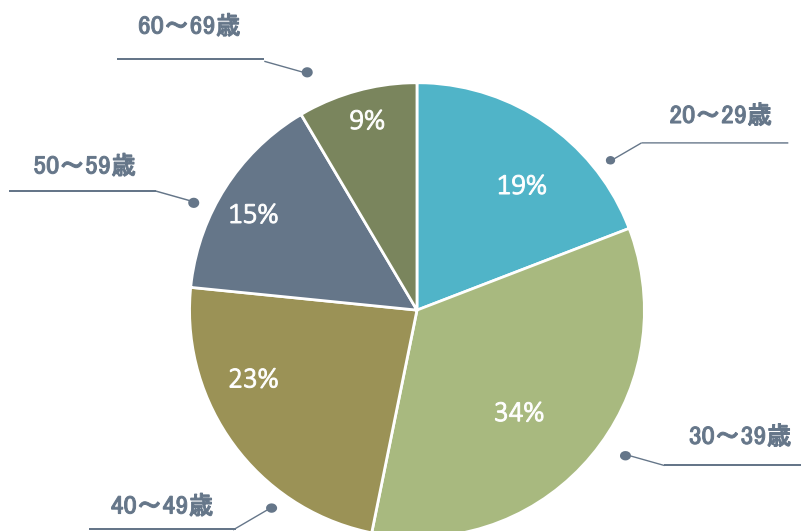
アンケート結果と 各社の取り組み事例

業界に従事していることを人に伝える抵抗感



半数以上の65%は抵抗がないと回答している一方、11%の抵抗がある人が存在している実態

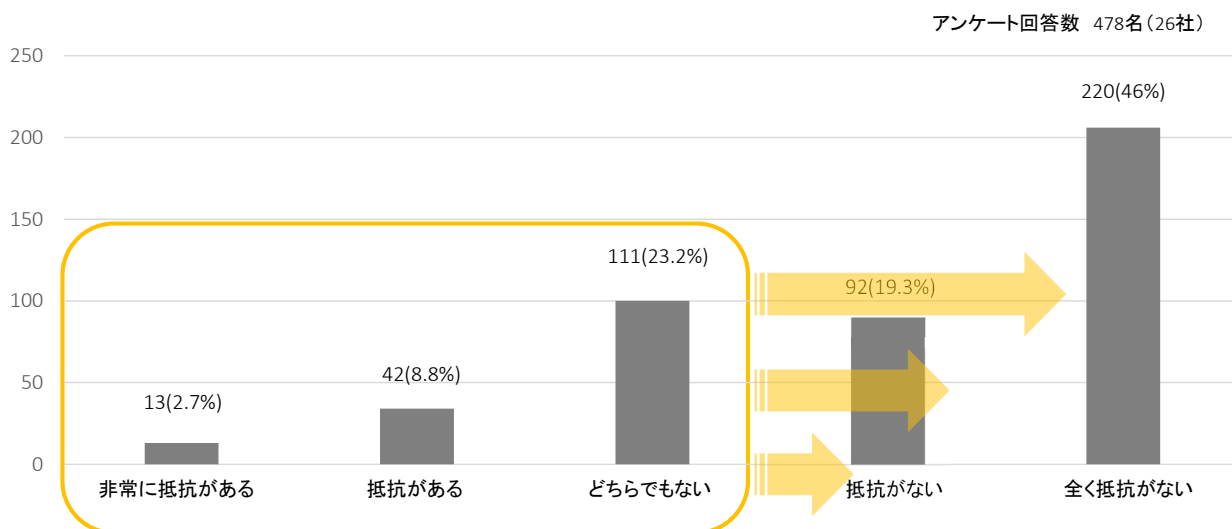
年齢構成別【抵抗がある・非常に抵抗がある】



アンケート母数 55名

(非常に)抵抗があると回答した**53%**が**20代~30代の若手社員**
今後を担う若手社員が大きく占めていることは業界としても急務の課題

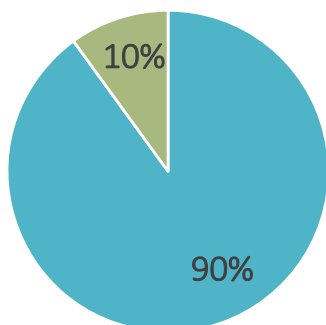
業界に従事していることを人に伝える抵抗感



業界従事していることを人に伝えることに抵抗がある方の割合を少しでも減らし、従事者に胸を張って仕事に取り組んでもらいたい！

昨年度の調査結果より

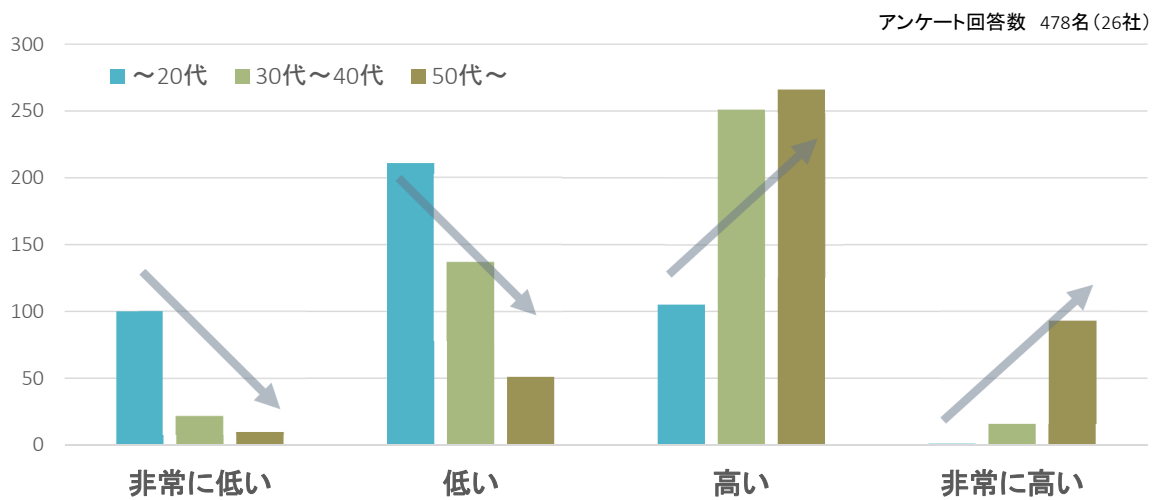
廃棄物処理業は社会に必要？



■ YES ■ NO

我々は社会にとって
必要不可欠な存在。
しかし各社で人材不足が課題に。

定着率



年齢が高いほど定着率が高く、年齢が低いほど定着率が低い結果となった。

→若年層 = 離職率が高い 中高年層 = 離職率が低い

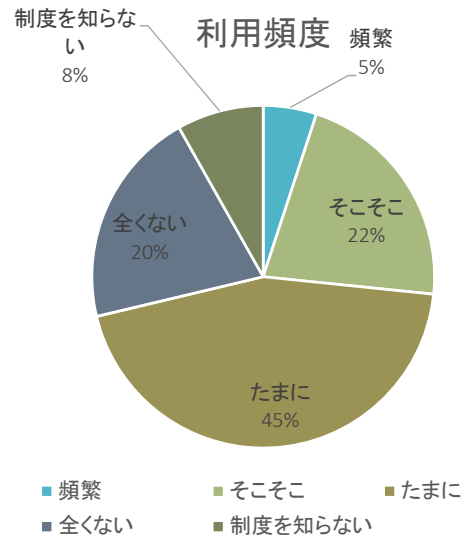
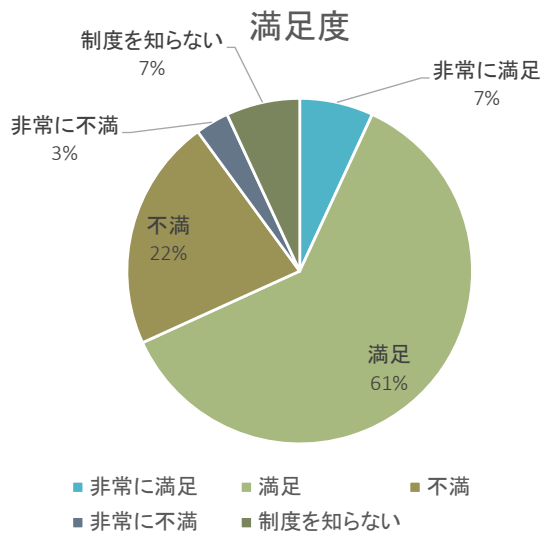
定着率をあげるための施策

福利厚生

評価制度

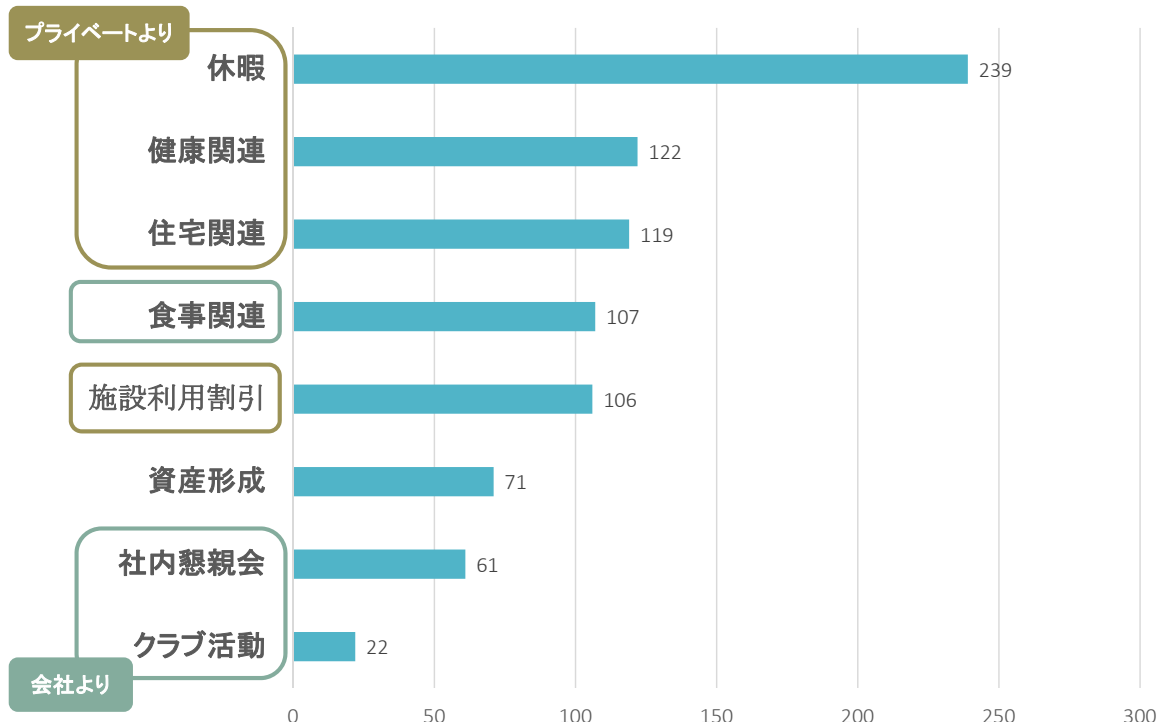
教育制度

福利厚生



アンケート回答数 478名(26社)

拡充してほしい福利厚生



各社の福利厚生を紹介



社内FA制度

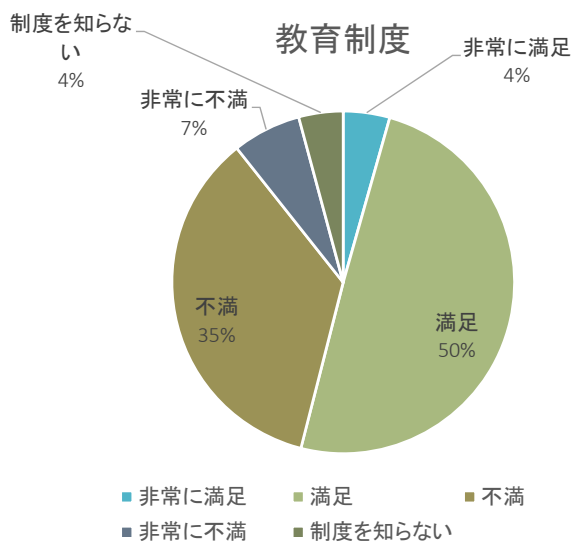
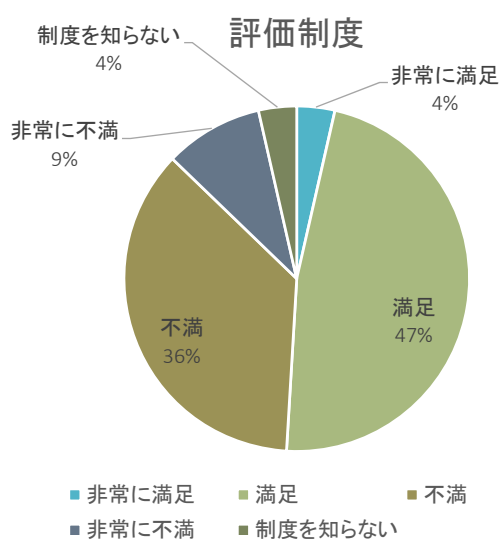


奨学金返済制度



高級車の休日レンタル

評価・教育制度



各社の評価・教育制度を紹介



360°評価



メンター制度



定期面談と評価者の教育

各社の評価・教育制度を紹介



360°評価

従業員にとって、より良くバージョンアップしていく必要がある



定期面談と評価者の教育

各社が社内外共にイメージ向上のため
日々試行錯誤しながら取り組んでいる

何か中部ブロックで「かたち」にできないか…

イメージ動画

<https://vimeo.com/user37897816/review/913186783/e2e6975177>

まとめ

まとめ

私たち経営塾OB会への所属企業数は234社。

各社が様々な手法で会社のイメージを上げることが、業界イメージの向上の第一歩になるのではないだろうか。

業界従事者はもちろん、業界従事者以外の方へも。

経営塾OB会のモットーである「かっこよくあれ」を求め続け、日々会員各社が切磋琢磨しながら、現状に満足することなく互いに成長し続けること、そしてそれが社会貢献に繋がること、これが経営塾OB会の醍醐味ではないだろうか。



THANK YOU FOR ALL !!



ご清聴ありがとうございました。